

OB 会役員、小屋委員、小屋 ML、現役各位

メール BOX を整理していたら以下の文章が出てきました。これは今年の夏に早稲田 WVOB 会山小屋委員からの小屋運営の質問に答えたものです。

小屋の運営の実情がどうなっているのか、私なりにまとめたもので、OB・現役に広く知ってもらうこと、今後の運営を考えてもらう意味で、ML へ寄稿しようと思います。皆様に読んでいただけましたら幸甚です。

よろしく願いいたします。

追伸:GW 頃は 34 田村、39 後藤兄弟と小屋&スノーキャンプにでかけることを計画中です。

2011年4月10日

笹倉

From: 笹倉 実

Sent: Sunday, August 29, 2010 3:41 PM

To: kuri-k ; 杉山 京大 山岳部 ;

早稲田大 栗原様

(CC:京都大 杉山様、早稲田大 永友様)

暑い時期が続いております。

山小屋の問い合わせありがとうございます。国大苗名小屋の状況は次の通りです。

参考にして頂ければ幸甚です。

(1)維持運営費

OB 会一般会計とは別に小屋会計を設けております。年間予算は約 30 万円程度です。

内訳として、

- ①:年 3 回程度の除雪作業はボランティアですので、外注費はありませんが、妙高までの交通費に補助金を出しており、これに数万円。
- ②:灯油・炭・ガソリン・プロパンなどの燃料や日常消耗品に数万円(電灯代は太陽 BT のため、ただに近い)。
- ③:土地代(年1万円)。
- ④:以下(2)の修繕・改修に残りの 15 万程度を使っています。

収入は、毎年一回の小屋寄付(OB 会年会費振込時に寄付も募る)と、1 泊 500 円(部外者は+100 円)の宿泊費によります。なお、大学所有の小屋ではないので、大学からの補助は一切ありません。早稲田小屋と同じように、収入は減収傾向にあるので、ここ数年は、OB 会一般会計から 30 万円の予算に

足りない分を数万円補填している状況です。なお、2000年頃に大屋根張替とトイレ改築を外注したときは特別寄付を行い、200万円ほど集まりました。この残金が数十万ありますので、内部留保し、今後の臨時費用に留保しています。

(2) 修繕や改修の費用(+余談)

2000年ごろから、DIYの練習かねて夏秋の休みを中心に、OB自前で修繕改築を行っています。これまでの施工は周囲の排水改良、台所の改築、腐朽した基礎土台交換、コンクリ床板打設、壁改築、2Fフローリングと押入れ作成、井戸からの通水、電気工事(自家発電=太陽光&発電機)などです。毎年15万程度の予算を組み、やれる範囲を少しずつ実施している状況です。最初の数年は工作道具をそろえるのにお金がかかりましたが、今は一通りそろったので、15万は資材代に大半を投入できますので、かなりのことができます。今年以降は1F床下の基礎土台とフローリングの痛みが激しいので、床下の防湿処理と、土台交換、フローリング全面張替えを予定しています。しかし、技術と人手動員の面で、どこまでを自前で、どこまでを外注(中電産業を予定)するか、小屋委員会と中電産業で検討している段階です。自前でやるメリットは、費用が格段に安いこと、ノウハウが身につくこと(場合によっては大工より丁寧に仕事ができる。いつでも小屋を直せる)、人が集まることによって親睦が深まる(この名目で飲める)ことです。年間数回OBが小屋に集まるのは、半分はメンテ、半分は遊びです。自分たちで自分たちの小屋の面倒をみるということが基本というわけです。また、山麓より雪の条件が厳しく、北海道並の凍害による影響もあり、建物としては特殊な環境条件にあると思います。この点は、業者でなく、実際に小屋を現場管理している人間でないと対処しきれない面もあると思います。その意味で委員会として持つノウハウの蓄積は重要です。本当は若い世代(現役、若手OB)も参加し、身に付けてもらい、将来の小屋維持に貢献してほしい気持ちもありますが、なかなか進まないのが悩みでもあります(小屋維持の高齢化問題)。

(3) 将来の「建替」

初代の小屋が存在するのは、この地区で苗名小屋だけになってしまいました。昔から話題にはなるのですが、組織的に建替を検討したことはこれまでありません。現在の小屋を修繕改良することで対処しておりますが、築40年を超えており、そろそろ方向性を考える時期にきているかなという状況です(個人的にはあと10年現小屋を維持して、その間に再建の見通しを立ててもらえればと思っています)。

(大学移管の問題)

各大学のように、大学の施設として所有を移管し、費用の軽減を図ることも方策のひとつですが、登記の問題(現在の小屋は無登記であり、現状での移管は不可)がありますので、どのような手順を踏めば良いのか、地主の岡田さんと相談しつつ、勉強している段階です。また、自前の小屋ゆえに管理上の制約(例えば、学校の許可なく自由に建物を改修できる等)なく使えて来たメリットもありますので、所有面でのメリットデメリットも整理しなければいけないと思っています。この点については早稲田、京都の小屋の状況をお教えいただければありがたいと思います。

(再建のコンセンサスと経営努力)

建替の問題は、費用や技術的な検討もありますが、それ以上に難しいのは、政治的な問題、すなわち、組織の世論をどう向けてゆくことかだと思います。建替の問題は、組織的に検討してこなかったと

いうより、あえて避けてきたとも思います。というのは、①現役数が減少し、現役の管理が不能、②汚い、暗い、不便、管理不届＝ますます利用しなくなっているタイミングで、建替の議論を始めても、良い結果にならないからです。そのため、小屋委員会としては、ここ数年、まずは小屋を前向きに活用する方策をOB主体に進めること、利用者を増やし、存在意義を高めることからはじめています。その上で、タイミングを見計らって再建の是非を問うべきでないかと思っております。方策としては次のようなものがあり、既に取り組み始めています。

利用形態の拡大: 現役の合宿主体のみの利用からOB及び家族友人を含めた活動拠点への利用

- ・無人避難小屋的な小屋から、3Kを克服した山荘へ(改造計画)居住性を良くする(ワンゲル以外のメンバーでも使えるようにする)
- ・小屋を利用した周囲の山行(妙高火打以外にも、山城散策)、季節毎のイベント(スキー、スノーハイク、山菜、シロップ取り、「なめこ」栽培、日本海カニ、魚BBQ)等
- ・現役の小屋活動の支援(電車で行きにくくなったので、自動車ガソリン代の援助)

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

YWVOB 会小屋委員会 笹倉